

10課

3月7日

キリストにおいて 満たされる

安息日午後

2月28日

暗証聖句

だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。(コロサイ 2:16、17、口語訳)

だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことだれにも批評されてはなりません。これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。(コロサイ 2:16、17、新共同訳)

今週の聖句

コロサイ 2章、ヘブライ(ハブル)7:11、イザヤ 61:3、Iコリント 3:6、
申命記 31:24~26、ローマ 2:28、29、ローマ 7:7

今週のテーマ

なぜ安息日を守るのですかと、あなたは尋ねられたことがありますか。おそらく今週の暗唱聖句さえ、安息日順守に反対する「証拠」として使われたかもしれません。しかしこの聖句は、十戒の第4条についてではなく、教会の一部の偽教師たちが教える誤りに対する反論として書かれたものです。その誤りとは、どのようなものだったのでしょうか。

第一に、その偽りの教えとは、「人間の言い伝えにすぎない哲学」[口語訳「むなし
いだましごとの哲学」]であり、それは「世を支配する霊に従っており、キリストに従う
ものではありません」[口語訳「キリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝
えに基くものにすぎない」](コロ 2:8)とされています。

また、その教えには、割礼やユダヤ教の祭りの順守(コロ 2:11、16)、食べ物に関するユダヤ教の清めの儀式や戒律(同 2:16、21)、天使礼拝や天使と共に礼拝すること、また天使礼拝を真似る試みも含まれていました(同 2:18)。

そして最後に、その教えは「人の規則や教え」[口語訳「人間の規定や教」](コロ 2:22、23)に基づいており、おそらくは禁欲的な実践を伴っていました。

偽りの教師たちは、明らかに信心深く誠実でしたが、福音を誤解していたのです。私たちは、今週、その誤解の理由や、暗唱聖句が第七日安息日の順守と何の関係もない理由も見えていきます。

コロ2章 (新共同訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人々のために、また、わたしとまだ直接顔を合わせたことのないすべての人のために、どれほど労苦して闘っているか、分かってほしい。

2:2 それは、この人々が心を励まされ、愛によって結び合わされ、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになるためです。

2:3 知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。

2:4 わたしがこう言うのは、あなたがたが巧みな議論にだまされないようにするためです。

2:5 わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでいます。

2:6 あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。

2:7 キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。

2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、

2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

2:11 あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨てるキリストの割礼を受け、

2:12 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

コロ2章 (口語訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人たちのために、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。

2:2 それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。

2:3 キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

2:4 わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。

2:5 たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでい。

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

2:7 また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

2:11 あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

2:13 肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、

2:14 規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

2:15 そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。

2:16 だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことだれにも批評されてはなりません。

2:17 これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。

2:18 偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、

2:19 頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

2:20 あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、

2:21 「手をつけるな。味わうな。触れるな」などという戒律に縛られているのですか。

2:22 これらはみな、使えば無くなってしまふもの、人の規則や教えによるものです。

2:23 これらは、独り善がりの礼拝、偽りの謙遜、体の苦行を伴っていて、知恵のあることのように見えますが、実は何の価値もなく、肉の欲望を満足させるだけなのです。

2:13 あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。

2:14 神は、わたしたちを責めて不利におとしめる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。

2:15 そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。

2:16 だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。

2:17 これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。

2:18 あなたがたは、わざとらしい謙遜と天使礼拝とにおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、

2:19 キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

2:21 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。

2:22 これらは皆、使えば尽きてしまうものの、人間の規定や教によっているものである。

2:23 これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙遜と、からだの苦行とをとまなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。

ヨブは、「知恵はどこに見いだされるのか/分別はどこにあるのか」〔口語訳「知恵はどこに見いだされるか。悟りのある所はどこか」〕(ヨブ 28:12)と問いましたが、パウロは、「知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています」〔口語訳「キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている」〕(コロ 2:3、1コリ 1:30と比較)と答えています。キリストを持っているなら、私たちはすべてを、つまり人生の目的に対する「豊かな理解力」(コロ 2:2、口語訳)さえ持っているのです。救済計画全体を含む神の秘められた計画(口語訳:神の奥義、コロ 2:2 参照)は、キリストを通して明らかにされました。

問1 コロサイ 2:1~7 を読んでください。パウロがこの手紙を書いた目的は何でしょうか。

ギリシア語の「パラクレーソーシン」は、「励まされる」または「強められる」という意味です(コロ 2:2)。パウロの願いは、コロサイの信徒が偽りの教えに見分けるのを助けるだけでなく、彼らがクリスチャンの愛で「結び合わされること」(ギリシア語の「スンビバスセンタース」)でした。「励まされる」と「結び合わされる」という二つの動詞の時制は、この書簡が本来の目的を達成するとのパウロの確信を示しています。

しかし、彼はまた、「あなたがた〔コロサイの信徒〕の正しい秩序と、キリストに対する固い信仰」〔口語訳「あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰」〕(コロ 2:5)を称賛しています。

「秩序」と訳されているギリシア語の「タクシス」は、新約聖書の中で、アロン(ルカ 1:8、ヘブ 7:11)やメルキゼデク(ヘブ 5:6、10、6:20、7:11、17)の祭司的序列について用いられていますが、パウロはここでも同様に、それを教会の秩序に適用しています(1コリ 14:40)。

時として、教会の秩序や組織を、神学的な意味を持たない単なる制度と考える傾向があります。しかし、礼拝における適切な礼儀作法を定め(例えば、1コリ 11章参照)、長老や執事の選出方法を具体的に指示することで(1テモ3章、テト1章)、パウロは教会の秩序を保つことに細心の注意を払いました。こうした方策を通じて、神の知恵と聖書の教えは守られ、広まっていきます。

コロサイの信徒は、パウロの仲間〔エパfras〕から正しい教えを受けていた〔コロ 1:7,8 参照〕ため、「固い信仰」〔口語訳「強固な信仰」、コロ 2:5〕を持っていました。それは、堅固な聖書の土台の上に築かれているので、その信仰を守り続けるなら、偽教師が広めている誤りから彼らは守られるのです。

あなた自身の霊的生活における「秩序」の必要性について、どのような経験をしてきましたか。

68

ヨブ 28:12 (新共同訳)

28:12 では、知恵はどこに見いだされるのか/分別はどこにあるのか。

コロ 2:3 (新共同訳)

2:3 知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。

1 コリ 1:30 (新共同訳)

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

コロ 2:1~7 (新共同訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人々のために、また、わたしとまだ直接顔を合わせたことのないすべての人のために、どれほど労苦して闘っているか、分かってほしい。

2:2 それは、この人々が心を励まされ、愛によって結び合わされ、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになるためです。

2:3 知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。

2:4 わたしがこう言うのは、あなたがたが巧みな議論にだまされないようにするためです。

2:5 わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでます。

2:6 あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。

2:7 キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。

ルカ 1:8 (新共同訳)

1:8 さて、ザカリヤは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、

ヨブ 28:12 (口語訳)

28:12 しかし知恵はどこに見いだされるか。悟りのある所はどこか。

コロ 2:3 (口語訳)

2:3 キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

1 コリ 1:30 (口語訳)

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

コロ 2:1~7 (口語訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオデキアにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。

2:2 それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。

2:3 キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

2:4 わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。

2:5 たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでる。

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

2:7 また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

ルカ 1:8 (口語訳)

1:8 さてザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務めをしていたとき、

ヘブ 7:11 (新共同訳)

7:11 ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、——というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから——いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう。

ヘブ 5:6、10 (新共同訳)

5:6 また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。

5:10 神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。

ヘブ 6:20 (新共同訳)

6:20 イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。

ヘブ 7:11、17 (新共同訳)

7:11 ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、——というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから——いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう。

7:17 なぜなら、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と証しされているからです。

I コリ 14:40 (新共同訳)

14:40 しかし、すべてを適切に、秩序正しく行いなさい。

※ I コリント 11 章、I テモテ 3 章、テトス 1 章はお手元の聖書をお読みください。

コロ 1:7、8 (新共同訳)

1:7 あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている仲間、愛するエパfrasから学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、

1:8 また、“霊”に基づくあなたがたの愛を知らせてくれた人です。

ヘブ 7:11 (口語訳)

7:11 もし全うされることがレビ系の祭司制によって可能であったら——民は祭司制の下に律法を与えられたのであるが——なんの必要があって、なお、「アロンに等しい」と呼ばれない、別な「メルキゼデクに等しい」祭司が立てられるのであるか。

ヘブ 5:6、10 (口語訳)

5:6 また、ほかの箇所でこう言われている、「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」。

5:10 神によって、メルキゼデクに等しい大祭司と、となえられたのである。

ヘブ 6:20 (口語訳)

6:20 その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのである。

ヘブ 7:11、17 (口語訳)

7:11 もし全うされることがレビ系の祭司制によって可能であったら——民は祭司制の下に律法を与えられたのであるが——なんの必要があって、なお、「アロンに等しい」と呼ばれない、別な「メルキゼデクに等しい」祭司が立てられるのであるか。

7:17 それについては、聖書に「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」とあかしされている。

I コリ 14:40 (口語訳)

14:40 しかし、すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行うがよい。

コロ 1:7、8 (口語訳)

1:7 あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエパfrasから学んだのであった。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であって、

1:8 あなたがたが御霊によっていただいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。

コロ 2:5 (新共同訳)

2:5 わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでます。

コロ 2:5 (口語訳)

2:5 たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでる。

月曜日 3月2日 キリストに根差して成長する

コロサイの信徒への手紙(コロサイ人への手紙)の主題は、クリスチャン生活を送るうえでの最も明快な原則の一つです。それは、「あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい」[口語訳「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」](コロ 2:6)ということです。私たちが救われるのは、単に一連の教えではなく、人格を持った1人のお方を受け入れることによってです。しかし、イエスを受け入れることには、聖書の使徒や預言者たちを通して与えられた、イエスの教えをすべて受け入れることも含まれます(エフェ[エペ]2:20 参照)。

何よりも、キリストを受け入れるというのは、自己に死ぬこと、つまり生けるキリストに自己を完全に明け渡すことを意味します。

生ける言(イエス)は、書かれた言葉(聖書)から切り離すことができません。その二つは同じ硬貨の表裏です。実際、聖書を通してのみ、私たちはイエスを知ることができます。私たちが「キリスト(イエス)に結ばれて歩(む)」[口語訳「彼にあって歩(く)」]、つまり人生を送るというのは、私たちのあらゆる決断と行いにおいて、神の言葉と聖霊に導いていただくことです。

コロサイ2:7でパウロは、クリスチャンを植物にたとえるという、聖書でよく使われる比喩を用いています。私たちはキリストを救い主として受け入れ、その御言葉に従って生活する[ordering our life、生活を整える/生活の秩序を定める]ことによって、キリストに根を下ろします。そのようにして、私たちは「信仰をしっかりと守(る)」[口語訳「信仰が確立され(る)」]のです。

問2 次の聖句は、信者の象徴としての植物の比喩を、いかに明らかにしていますか(イザ 61:3、マタ 3:10、ルカ 8:11~15、I コリ 3:6)。

パウロは、信者に与えられている二つの選択肢を明確に描いています。一つ、「主が……植えられた」(イザ 61:3)ものであり続け、キリストとその教えに固くとどまることによって、キリストにあって完全であり続ける[continue being complete in Christ、キリストにおいてみたまされ(続ける)/キリストにあって……満たされ(続ける)、コロ2:10参照]

ことです。もう一つは、本物のように見えても、実際には命のない人工植物のようになることです。人間の哲学や言い伝えを受け入れることで、私たちは「とりこにされ」(コロ 2:8)てしまいます。キリストが私たちを解放してくださったにもかかわらず、再び奴隷のくびきにつながれる可能性があるのです(ガラ 5:1、使徒 15:10 と比較)。

要するに、聖書に反する教えを受け入れることは、キリストを拒絶することを意味します。なぜなら、偽りの教えを支持する人は、残念ながらほかの福音を受け入れ、聖書の権威よりも人間の権威を認めたことになるからです(ガラ 1:6~9 参照)。これは初代教会における危険でしたが、今日でも同じです。

【参考】英語テキストにある続きの文

What has been your own experience with what it means to die to self in order to receive Christ? Why must that be a continual process?

キリストを受け入れるために自己に死ぬということがどういうことか、あなた自身はどんな経験をしてきましたか。なぜそれはずっと続くプロセスでなければなりませんか。

69

コロ 2:6~10 (新共同訳)

2:6 あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。

2:7 キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。

2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、

2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

エフェ 2:20 (新共同訳)

2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかため石はキリスト・イエス御自身であり、

コロ 2:6~10 (口語訳)

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

2:7 また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言い伝えに基くものにすぎない。

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

エペ 2:20 (口語訳)

2:20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

イザ 61:3 (新共同訳)

61:3 シオンのゆえに嘆いている人々に/
灰に代えて冠をかぶらせ/嘆きに代えて
喜びの香油を/暗い心に代えて賛美の衣
をまとわせるために。彼らは主が輝きを
現すために植えられた/正義の樅の木と
呼ばれる。

マタ 3:10 (新共同訳)

3:10 斧は既に木の根元に置かれている。
良い実を結ばない木はみな、切り倒され
て火に投げ込まれる。

ルカ 8:11~15 (新共同訳)

8:11 「このたとえの意味はこうである。
種は神の言葉である。
8:12 道端のものとは、御言葉を聞くが、
信じて救われることのないように、後か
ら悪魔が来て、その心から御言葉を奪い
去る人たちである。
8:13 石地のものとは、御言葉を聞くと喜
んで受け入れるが、根がないので、しば
らくは信じて、試練に遭うと身を引い
てしまう人たちのことである。

8:14 そして、茨の中に落ちたのは、御言
葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富
や快楽に覆いふさがれて、実が熟するま
でに至らない人たちである。
8:15 良い土地に落ちたのは、立派な善い
心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して
実を結ぶ人たちである。」

I コリ 3:6 (新共同訳)

3:6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。
しかし、成長させてくださったのは神で
す。

コロ 2:8 (新共同訳)

2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つ
まり、むなしいだまし事によって人のと
りにさせられないように気をつけなさい。
それは、世を支配する霊に従っており、
キリストに従うものではありません。

ガラ 5:1 (新共同訳)

5:1 この自由を得させるために、キリス
トはわたしたちを自由の身にしてくださ
ったのです。だから、しっかりしなさい。
奴隷の轡に二度とつながれてはなりません

イザ 61:3 (口語訳)

61:3 シオンの中の悲しむ者に喜びを
与え、灰にかえて冠をかぶせ、悲しみにか
えて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、
さんびの衣を与えさせるためである。こ
うして、彼らは義のかしの木となえら
れ、主がその栄光をあらわすために植え
られた者となえられる。

マタ 3:10 (口語訳)

3:10 斧がすでに木の根もとに置かれて
いる。だから、良い実を結ばない木はこ
とごとく切られて、火の中に投げ込ま
れるのだ。

ルカ 8:11~15 (口語訳)

8:11 この譬はこういう意味である。種は
神の言である。
8:12 道ばたに落ちたのは、聞いたのち、
信じることも救われることもないよう
に、悪魔によってその心から御言が奪
い取られる人たちのことである。
8:13 岩の上に落ちたのは、御言を聞いた
時には喜んで受け入れるが、根が無い
ので、しばらくは信じていても、試練の時
が来ると、信仰を捨てる人たちのこと
である。
8:14 いばらの中に落ちたのは、聞いてか
ら日を過ごすうちに、生活の心づかい
や富や快楽にふさがれて、実が熟するま
でにならない人たちのことである。
8:15 良い地に落ちたのは、御言を聞いた
のち、これを正しい良い心でしっかりと
守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人
たちのことである。

I コリ 3:6 (口語訳)

3:6 わたしは植え、アポロは水をそい
だ。しかし成長させて下さるのは、神で
ある。

コロ 2:8 (口語訳)

2:8 あなたがたは、むなしいだましごと
の哲学で、人のとりにさせられないよう
に、気をつけなさい。それはキリストに
従わず、世のもろもろの霊力に従う人
間の言伝えに基くものにすぎない。

ガラ 5:1 (口語訳)

5:1 自由を得させるために、キリス
トはわたしたちを解放して下さった
のである。だから、堅く立て、二度と
奴隷のくびきにつながれてはならない。

ん。

使徒 15:10 (新共同訳)

15:10 それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。

ガラ 1:6~9 (新共同訳)

1:6 キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。

1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。

1:8 しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよい。

1:9 わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。

使徒 15:10 (口語訳)

15:10 しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかったくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。

ガラ 1:6~9 (口語訳)

1:6 あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。

1:7 それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。

1:8 しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。

1:9 わたしたちが前にも言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。

火曜日

3月3日

十字架に釘づけにされる

※口語訳:十字架につけてしまわれ(る)(コロ2:14)

問3 コロサイ2:11~15 を読んでください。パウロはここで、どのような問題と戦っているのでしょうか。

これらの聖句、特にコロサイ2:14が、律法や安息日順守に反対する論拠として誤用されるのを、どれほど見てきたことでしょうか。この箇所を理解するために、アドベンチスト教会は、おもに二つの解釈を提唱してきました。一つ目は、十字架に釘づけにされた「証書」は、ピラトがイエスの十字架の上に掛けた罪状書に似て(マタ27:37、ヨハ19:19、20)、「わたしたちを訴え(た)」[口語訳「わたしたちを責め(た)」]告発のリストであるという解釈です。そして二つ目は、モーセによって書かれた礼典律(申31:24~26 参照)が十字架に釘づけにされた[口語訳:十字架につけてしまわれ(た)]という解釈です。

この1節をより大きな文脈の中で見ると、明らかに礼典律について語っていることがわかります。

パウロはまた、「手によらない割礼」(コロ 2:11)、すなわち「心の割礼」(ロマ 2:28、29、申 30:16と比較)についても言及しており、それは、礼典律の最も重要な規定の一つであった肉体の割礼とは明らかに対照的なものでした(レビ 12:3、出 12:48と比較)。

パウロは次に、この内なる変化を「罪(肉)の体を脱ぎ捨てる」ことや、洗めのバプテスマと結びつけています。このバプテスマによって、私たちはキリストの死や復活と一体になります(コロ 2:11、12)。そしてこの回心の経験は、「罪の中にいて死んでいた」〔口語訳「罪の中にあり、……死んでいた」〕状態から、「わたしたちの一切の罪を赦〔ゆる〕し」〔口語訳「わたしたちのいっさいの罪をゆるし」〕てくださった「キリストと共に生か」されることだと、たとえられています(同 2:13)。

「規則(規定)」(コロ 2:14)という言葉は、世俗的なもの(ルカ 2:1、使徒 17:7)であれ、教會的なもの(使徒 16:4)であれ、法的な定めを指します。このギリシア語がパウロの書簡に出てくるのは、ユダヤ人と異邦人の間に隔ての壁を形成した礼典律を指す場合だけです(エフェ[エペ] 2:14、15)。

パウロは、すでに罪の赦しとバプテスマに象徴される内なる変化について言及しているので、聖書のほかのどこにも使われていない別の比喩を用いて、再びその話題に戻るとは考えにくいことです。むしろ、エフェソの信徒への手紙(エペソ人への手紙)で述べたのと同じ点を強調していると思われます。すなわち、コロサイの異邦人の信者は、割礼を含む礼典律を守ることや、そのような誓約に伴う清めの掟について心配する必要はないということです(使徒 10:28、34、35と比較)。

明らかにパウロは、十戒が十字架に釘づけにされたこと示唆していたのではありません。ほかの箇所では彼は、罪とは十戒の違反であると定義しているからです(ロマ 7:7)。〔※Ⅰヨハ3:4も参照してください。〕

70

コロ 2:11～15 (新共同訳)

2:11 あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨てるキリストの割礼を受け、

2:12 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

2:13 肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださいました。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、

2:14 規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを

コロ 2:11～15 (口語訳)

2:11 あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

2:13 あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。

2:14 神は、わたしたちを責めて不利におとし入れる証書を、その規定もろともぬ

十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

2:15 そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。

マタ 27:37 (新共同訳)

27:37 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。

ヨハ 19:19、20 (新共同訳)

19:19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。

19:20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。

申 31:24~26 (新共同訳)

31:24 モーセは、この律法の言葉を余すところなく書物に書き終えると、

31:25 主の契約の箱を担ぐレビ人に命じた。

31:26 「この律法の書を取り、あなたたちの神、主の契約の箱の傍らに置き、あなたに対する証言としてそこにあるようにしなさい。」

ロマ 2:28、29 (新共同訳)

2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。

2:29 内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく“霊”によって心に施された割礼こそ割礼なのです。その誉れは人からではなく、神から来るのです。

申 30:16 (新共同訳)

30:16 わたしが今日命じるとおり、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。

り消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。

2:15 そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。

マタ 27:37 (口語訳)

27:37 そしてその頭の上の方に、「これはユダヤ人の王イエス」と書いた罪状書きをかけた。

ヨハ 19:19、20 (口語訳)

19:19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上にかげさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。

19:20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシアの国語で書いてあった。

申 31:24~26 (口語訳)

31:24 モーセがこの律法の言葉を、ことごとく書物に書き終った時、

31:25 モーセは主の契約の箱をかつぐレビびとに命じて言った、

31:26 「この律法の書をとって、あなたがたの神、主の契約の箱のかたわらに置き、その所であなたにむかってあかしをするものとしなさい。」

ロマ 2:28、29 (口語訳)

2:28 というのは、外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、外見上の肉における割礼が割礼でもない。

2:29 かえって、隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、また、文字によらず霊による心の割礼こそ割礼であって、そのほまれは人からではなく、神から来るのである。

申 30:16 (口語訳)

30:16 すなわちわたしは、きょう、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めと定めと、おきてとを守ることを命じる。それに従うならば、あなたは生きながらえ、その数は多くなるであろう。またあなたの神、主はあなたが行って取る地であなたを祝福されるであろう。

レビ 12:3 (新共同訳)

12:3 八日目にはその子の包皮に割礼を施す。

出 12:48 (新共同訳)

12:48 もし、寄留者があなたのごところに寄留し、主の過越祭を祝おうとするときは、男子は皆、割礼を受けた後にそれを祝うことが許される。彼はそうすれば、その土地に生まれた者と同様になる。しかし、無割礼の者は、だれもこれを食べることができない。

ルカ 2:1 (新共同訳)

2:1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

使徒 17:7 (新共同訳)

17:7 ヤソンは彼らをかかまっているのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。」

使徒 16:4 (新共同訳)

16:4 彼らは方々の町を巡回して、エルサレムの使徒と長老たちが決めた規定を守るようにと、人々に伝えた。

エフェ 2:14、15 (新共同訳)

2:14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、

2:15 規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、

使徒 10:28、34、35 (新共同訳)

10:28 彼らに言った。「あなたがたもご存じのとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、外国人を訪問したりすることは、律法で禁じられています。けれども、神はわたしに、どんな人をも清くない者とか、汚れている者とか言ってはならないと、お示しになりました。

10:34 そこで、ペテロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。

10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。

レビ 12:3 (口語訳)

12:3 八日目にはその子の前の皮に割礼を施さなければならぬ。

出 12:48 (口語訳)

12:48 寄留の外国人があなたのもとにとどまっていて、主に過越の祭を守ろうとするときは、その男子はみな割礼を受けてのち、近づいてこれを守ることができる。そうすれば彼は国に生れた者のようになるであろう。しかし、無割礼の者はだれもこれを食べてはならない。

ルカ 2:1 (口語訳)

2:1 そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。

使徒 17:7 (口語訳)

17:7 その人たちをヤソンが自分の家に迎え入れました。この連中は、みなカイザルの詔勅にそむいて行動し、イエスという別の王がいるなどと言っています。」

使徒 16:4 (口語訳)

16:4 それから彼らは通る町々で、エルサレムの使徒たちや長老たちの取り決めた事項を守るようにと、人々にそれを渡した。

エペ 2:14、15 (口語訳)

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

使徒 10:28、34、35 (口語訳)

10:28 ペテロは彼らに言った、「あなたがたが知っているのとおり、ユダヤ人が他国の人と交際したり、出入りしたりすることは、禁じられています。ところが、神は、どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、わたしにお示しになりました。

10:34 そこでペテロは口を開いて言った、「神は人をかたよりみないかたで、

10:35 神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて下さることが、ほんとうによくわかってきました。

ロマ 7:7 (新共同訳)

7:7 では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。

Iヨハ 3:4 (新共同訳)

3:4 罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです。

ロマ 7:7 (口語訳)

7:7 それでは、わたしたちは、なんと言おうか。律法は罪なのか。断じてそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう。すなわち、もし律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう。

Iヨハ 3:4 (口語訳)

3:4 すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

水曜日 3月4日 影か、実体(本体)か

問4 コロサイ 2:16~19 を読んでください。ここでパウロは、どのようなユダヤ・キリスト教的慣習(ユダヤ人キリスト教徒の慣習)を強調していますか。

※【参考】「ユダヤ・キリスト教的」と訳されている部分の英語表記 = **Jewish-Christian**

- 日本語テキスト p.71 第1段落5行目「ユダヤ人の信者」
- 日本語テキスト p.72 第2段落2行目「ユダヤ人クリスチャン」
- 副読本 p.61「クリスチャンになったユダヤ人」

今日に至るまで、パウロがここで取り組んでいる問題が具体的に何であったのか、学者の間でも意見は一致していません。確かなのは、パウロの書簡自体が異邦人の多いこの教会にユダヤ・キリスト教的対立を生じさせる影響を及ぼしていたと思われることについて、かなりの情報を提供しているということです(コロ 2:13)。つまり、ユダヤ人の信者が、教会員にとって従う必要のないことを押しつけていたのです。

コロサイ2:16には、明らかにユダヤ教の慣習がいくつか列挙されており、キリスト教に改宗した一部のユダヤ人の間では、それらの慣習が続けられていたようです。コロサイ2:18の要素も同じ文脈に当てはまります。イエスは、宗教指導者たちの偽りの謙遜を批判されました(例えば、マタ 6:1、5、7、16)。クムランで見つかった写本から、あるユダヤ人たちの礼拝観において天使が重要な位置を占めていたことがわかります。ですから、パウロがコロサイで直面していた問題は、ほかの場所で直面した問題と類似していたと考えられます。

コロサイ2:16は誤解されることがよくあるので、より詳しく考察することが重要です。次の点に注目してください。

パウロが「だから」という言葉を使っているのは、この聖句がすでに述べたことから導き出された結論であることを示しています。先に、文字どおりの割礼の必要

性は否定されていきました(コロ 2:11~15)。なぜなら、重要なのは、心の内面の変化だからです。

「食べ物や飲み物」〔口語訳「食物と飲み物」(コロ 2:16)〕は、イスラエル人が神殿にささげた食事や飲み物の供え物を指します。

「祭りや新月や安息日」〔口語訳「祭や新月や安息日」(コロ 2:16)〕という表現は、ホセア2:13(口語訳 2:11)を暗示していると考えられ、そこでは祭礼関連の安息日を含む、同じ一連の祭礼の日が言及されています(例えば、レビ 23:11、24、32 参照)。

この聖句を理解するうえで重要なのは、パウロ自身の次の解釈です。「これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります」〔口語訳「これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある」〕(コロ 2:17)。こういった祭礼の日は、いけにえと同様、キリストの働きを指し示していました(1コリ 5:7、15:23 参照)。対照的に、第七日安息日は、罪に墮ちる以前に、つまり聖所でのいけにえの儀式が採用されるずっと前に、エデンで制定されました。したがって、それは十字架のあとで消え去る影ではありませんでした。

【参考】英語テキストにある文

Although the seventh-day Sabbath is not at issue here, how might you apply Paul's counsel about not passing judgment on others?

第七日安息日がここで問題となっているわけではありませんが、他者を裁いてはならないというパウロの勧告を、あなたはどのように適用できるでしょうか。

71

コロ 2:11~19 (新共同訳)

2:11 あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨ててキリストの割礼を受け、

2:12 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

2:13 肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、

2:14 規則によってわたしたちを訴えて不利に陥っていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

コロ 2:11~19 (口語訳)

2:11 あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

2:13 あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。

2:14 神は、わたしたちを責めて不利におとしいる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。

2:15 そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。

2:16 だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことだれにも批評されてはなりません。

2:17 これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。

2:18 偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、

2:19 頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

マタ 6:1、5、7、16 (新共同訳)

6:1 「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。

6:5 「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

6:7 また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思込んでいる。

6:16 「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

ホセ 2:13 (新共同訳)

2:13 わたしは彼女の楽しみをすべて絶ち/祭り、新月祭、安息日などの祝いを/すべてやめさせる。

レビ 23:11、24、32 (新共同訳)

23:11 祭司は、それを主に受け入れられるよう御前に差し出す。祭司は安息日の

2:15 そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。

2:16 だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。

2:17 これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。

2:18 あなたがたは、わざとらしい謙遜と天使礼拝とにおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、

2:19 キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。

マタ 6:1、5、7、16 (口語訳)

6:1 自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意しなさい。もし、そうしないと、天にいますあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

6:5 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:7 また、祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞きいれられるものと思っている。

6:16 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

ホセ 2:11 (口語訳)

2:11 わたしは彼女のすべての楽しみ、すなわち祝、新月、安息日、すべての祭をやめさせる。

レビ 23:11、24、32 (口語訳)

23:11 彼はあなたがたの受け入れられるように、その束を主の前に揺り動かすで

翌日にそれを差し出さねばならない。

23:24 イスラエルの人々に告げなさい。第七の月の一日は安息の日として守り、角笛を吹き鳴らして記念し、聖なる集会の日としなさい。

23:32 この日はあなたたちの最も厳かな安息日であり、あなたたちは苦行をせねばならない。この月の九日の夕暮れから翌日の夕暮れまでを安息日として安息しなさい。

I コリ 5:7 (新共同訳)

5:7 いつも新しい練り粉のままにいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。

I コリ 15:23 (新共同訳)

15:23 ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、

あろう。すなわち、祭司は安息日の翌日に、これを揺り動かすであらう。

23:24 「イスラエルの人々に言いなさい、『七月一日をあなたがたの安息の日とし、ラッパを吹き鳴らして記念する聖会としなければならない。』

23:32 これはあなたがたの全き休みの安息日である。あなたがたは身を悩まさなければならぬ。またその月の九日の夕には、その夕から次の夕まで安息を守らなければならない」。

I コリ 5:7 (口語訳)

5:7 新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ。

I コリ 15:23 (口語訳)

15:23 ただ、各自はそれぞれの順序に従わねばならない。最初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリストに属する者たち、

木曜日 3月5日 人の戒め

問5 コロサイ 2:20~23 を読んでください。この章で論じられているほかの要素を踏まえて、あなたはパウロの勧告をどう理解しますか。

ガラテヤの信徒への手紙(ガラテヤ人への手紙)でも見られるように、パウロはユダヤ人の儀式を守ることへの関心を、「世を支配する(諸)霊」〔口語訳「世のもろもろの霊力」〕(コロ 2:8、20、ガラ 4:3、9と比較)と見なしています。言い換えれば、地上の神殿と同様、これらのものは地上に属しますが、私たちの市民権は天にあります。私たちは礼典律に縛られる必要はありません。なぜなら礼典律は、キリストを通して私たちが享受する現実を、あらかじめ示していたにすぎないからです。つまり、これらの規定は、もともと神によって与えられたものですが、その役割を果たしたので、もはや必要とされないのです。

神の御手が神殿の幕を裂いたことで示されたように(マタ 27:51、ダニ 9:27と比較)、このような規定はすべて十字架で廃されたので、(ユダヤ人クリスチャンを含む)クリスチャンは、これらの規定を守る必要がありません。これらの規定に従うなら、私たちは実質的に、キリストにおいて約束された新しい世界とは対照的な、過ぎ去

りつつあるこの世と一体になってしまいます。

結局のところ、私たちが待ち望んでいるのは、「義の宿る新しい天と新しい地」〔口語訳「義の住む新しい天と新しい地」〕(Ⅱペト 3:13)であって、この古い世界の単なる刷新ではありません。ファリサイ派の人々(パリサイ人)や律法学者がモーセの規定に人間的な要求を付け加えたという事実に加えて(マコ 7:1~13 参照)、キリストによって成就した旧約聖書の儀式を存続させることは、もはや神の要求とは見なされず、人間が課した義務にすぎないとされました。実際、それらは信仰を高めるものではなく、信仰にとって重荷となっていたようです。こうしたことをすべて行うことで、いとも簡単に自分が行わない人よりも優れていると思うだけでなく、それだけでも十分に危険なことですが、それを救いに値する功績であるかのようにさえ考えてしまいます。この罠に陥らないように注意しなければなりません。

キリスト教史を通じて、聖書の専門家たちは、自分たちが宗教的な判断を下すという誘惑に屈し、聖書の言葉の意味について信者を導かれる聖霊の役割を奪ってきました。パウロやほかの聖書記者たちが教えたように、聖書の真理を湧き上がらせる泉は、キリストご自身です。

救いの唯一の土台は、イエスが私たちの内にどのようなことをなされたかに関わりなく、主が私たちのために、私たちの外で、私たちに代わってなされたことにあります。どうしたらそのことをしっかり理解できるでしょうか。

72

コロ 2:20~23 (新共同訳)

2:20 あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、

2:21 「手をつけるな。味わうな。触れるな」などという戒律に縛られているのですか。

2:22 これらはみな、使えば無くなってしまふもの、人の規則や教えによるものです。

2:23 これらは、独り善がりの礼拝、偽りの謙遜、体の苦行を伴っていて、知恵のあることのように見えますが、実は何の価値もなく、肉の欲望を満足させるだけののです。

コロ 2:8、20 (新共同訳)

2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のと

コロ 2:20~23 (口語訳)

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

2:21 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。

2:22 これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。

2:23 これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙遜と、からだの苦行とをとまなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。

コロ 2:8、20 (口語訳)

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、

りにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。2:20 あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、

ガラ 4:3、9 (新共同訳)

4:3 同様にわたしたちも、未成年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。

4:9 しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか。

マタ 27:51 (新共同訳)

27:51 そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、

ダニ 9:27 (新共同訳)

9:27 彼は一週の間、多くの者と同盟を固め/半週でいけにえと献げ物を廃止する。憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる。」

Ⅱペト 3:13 (新共同訳)

3:13 しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。

マコ 7:1～13 (新共同訳)

7:1 ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。

7:2 そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者があるのを見た。

7:3—ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないとい食事せず、

7:4 また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないとい食事しない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っている

気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの靈力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

ガラ 4:3、9 (口語訳)

4:3 それと同じく、わたしたちも子供であった時には、いわゆるこの世のもろもろの靈力の下に、縛られていた者であった。

4:9 しかし、今では神を知っているのに、否、むしろ神に知られているのに、どうして、あの無力で貧弱な、もろもろの靈力に逆もどりして、またもや、新たにその奴隷になろうとするのか。

マタ 27:51 (口語訳)

27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、

ダニ 9:27 (口語訳)

9:27 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです。」

Ⅱペテ 3:13 (口語訳)

3:13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。

マコ 7:1～13 (口語訳)

7:1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。

7:2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。

7:3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言い伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないとい、食事をしない。

7:4 また市場から帰ったときには、身を清めてからでないとい、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている

ことがたくさんある。――

7:5 そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」

7:6 イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。』

7:7 人間の戒めを教えとしておしえ、むなしくわたしをあがめている。』

7:8 あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」

7:9 更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。」

7:10 モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。

7:11 それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、『あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です』と言えば、

7:12 その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』と。

7:13 こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」

る事が、たくさんあった。

7:5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか。」

7:6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。』

7:7 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拜んでいる。』

7:8 あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言い伝えを固執している。」

7:9 また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。」

7:10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。

7:11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、

7:12 その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。

7:13 こうしてあなたがたは、自分たちが受けついだ言い伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている。」

金曜日 3月6日 さらなる研究

「弟子たちの時代に、人々は伝統や哲学によって聖書を信じる信仰を破壊させようとしたが、今日は、高等批評、進化論、心霊術、神知学、汎神論など心を楽しみます意見によって、義の敵は魂を禁じられた道へ導こうとしている。多くの人たちにとって、聖書は油のないランプのようなものである。なぜなら、彼らの心は誤解と混乱しか招かないような、推論的信念に向けられているからである。分析し、推測し、組み立て直す『高等批評』の作業が、神の啓示としての聖書についての信仰を破壊している。高等批評は、神の御言葉から、人の生活を支配し、高め、靈感を与える力を奪っている。心霊術によって多くの人々は、欲望が最高の律法であり、放

縦が自由であり、人は自分にだけ責任があるのだと信じるよう教え込まれている。

キリストに従う者は、使徒がコロサイの信者たちに警告した『巧みな言葉』に出会うであろう。また、心霊主義的な聖書解釈に出会うであろう。しかし、それらを受け入れてはならない。キリストに従う者の声は、聖書の永遠の真理を明確に語らなければならない。目をキリストに向け、キリストの教えに一致しない考えをことごとく捨てて、定められている道を着実に進んで行かなければならない。神の真理が彼の黙想、瞑想の主題でなければならない。聖書を、直接彼に語りかける神の声と思わなければならない。こうして彼は、聖なる知恵を見いだすのである」(『希望への光』1536 ページ、「患難から栄光へ」第45章)。

話し合いのための質問

- ① 「キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく……宿っており」、「キリストはすべての支配や権威の頭です」(口語訳「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、……宿っており」(彼はすべての支配と権威とのかしらであり)。(コロ 2:9、10)とは、どういう意味でしょうか(ヨハネ 1:1、ヘブライ(ヘブル)1:3、I ペテロ(ペテロ)3:22 参照)。
- ② コロサイ2:14~16が第七日安息日に対する反論として用いられていることを、おそらく私たちはみな、耳にしたことがあるでしょう。今週の研究で明らかにされたこと以外に、これらの聖句を用いて十戒の第4条を守る必要がなくなったと主張することには、どのような問題がありますか。
- ③ 礼典律も守らなければならないと主張する人に、あなたはどうか対処しますか。礼典律を守ることで霊的、神学的な祝福を見いだせるかもしれませんが、典律を守らなければならないと主張することで、どのような問題が生じますか。
- ④ エレン・ホワイトは、聖書を、「直接語りかける神の声」と見なすべきだと金曜日の引用文の中で書いています。では、なぜ私たちは、その一部に不都合に感じられる箇所があっても、聖書全体の権威と靈感に対する信仰を弱めるような人や物から、しっかり自分自身を守らなければならないのでしょうか。

73

コロ 2:9、10 (新共同訳)
2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、
2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

コロ 2:9、10 (口語訳)
2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、
2:10 そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

ヨハ 1:1 (新共同訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

ヘブ 1:3 (新共同訳)

1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。

I ペト 3:22 (新共同訳)

3:22 キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢力は、キリストの支配に服しているのです。

コロ 2:14~16 (新共同訳)

2:14 規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

2:15 そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。

2:16 だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことだれにも批評されてはなりません。

ヨハ 1:1 (口語訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

ヘブ 1:3 (口語訳)

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

I ペテ 3:22 (口語訳)

3:22 キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの権威、権力を従えておられるのである。

コロ 2:14~16 (口語訳)

2:14 神は、わたしたちを責めて不利におとしめる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。

2:15 そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。

2:16 だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。